〈関係者の皆様へ〉

株式会社 さかいまちづくり公社

T&S News

（利根川・さかい河岸）

2024年8月
第0002号

利根川・さかい河岸DMO
関係者向けニュースレター
◆第2号
令和６年８月15日発行

発行/ ㈱さかいまちづくり公社
発行者：萩原扶美、渡邊竜一

来年３月申請のDMO本登録に向けて準備を進めています

株式会社さかいまちづくり公社は、現在来年3月にDMO法人本登録に向けた準備を進めています。申請基準を満たすためのアンケートの実施やこのような広報周知活動も行っていきます。ご協力よろしくお願いいたします。

7/15(月)境町民限定！鰻工場祭が開催！

7/15(月)にふるさと納税還元イベントとして鰻工場祭を境町地域産業研究開発拠点施設（Ｓ－Ｌａｂ４ｔｈ）にて開催し、1500人のお客様に鰻を特別価格で販売しました。あいにくの雨模様でしたが、たくさんの方に参加いただきました。
【商品】
◯鰻1尾3,000円→1,000円　◯鰻3尾2,500円

これまでに境町では、交流人口拡大、地元経済の活性化を図るべく、地方創生関係交付金を活用して、世界的な建築家である隈研吾氏設計の建築物６施設を整備してまいりました。2024年１月、同氏設計の建築物７施設目として、「境町地域産業研究開発拠点施設（Ｓ－Ｌａｂ４ｔｈ）」が完成しました。

7/20(土)~7/21(日)鳥取にて3駅(鳥取県岩美町・沖縄県国頭村・茨城県境町)合同イベントを開催

道の駅きなんせ岩美は、鳥取県岩美郡岩美町にある道の駅で、先日９周年を迎えられました。昨年道の駅同士で友好協定を締結している3駅(鳥取県岩美町・沖縄県国頭村・茨城県境町)が、締結1周年を迎えるということで、　友好交流物産フェアを開催しました。
岩美高校の皆様によるジャズオーケストラコンサートやねんりんピックはばたけ鳥取公式キャラクターあおやかみじろう君の特別ステージなど豪華な内容です。

【道の駅さかい出品商品】
○茨城県産メロン　○メロンパン　○モンブラン(和栗/チョコミント)　○干し芋(平干し300g/丸干し200g/切り落とし)

２日間多くの方に来場いただき、境町を知っていただくPRと産品のアピールをしてきました。

新発売！道の駅さかいオリジナル「芋グミ・芋けんぴ」

境町のふるさと納税の返礼品として、今や主力商品となっている干し芋ですが、製造の過程でどうしてもさつまいもの一次廃棄品が出てしまいます。通常であれば、廃棄費用を支払って、産業廃棄物として処理しなければならないのですが、さかいまちづくり公社では、この一時廃棄物を様々な再利用できる資源と考えた工夫を始めています。その中で、芋グミや芋けんぴなどの商品化を進めてきました。
素材のさつまいもは、地元境町で生産者が丁寧に育てている逸品ですから、加工品としても、とてもおいしく出来上がっています。道の駅さかいのオリジナル商品として販売しています。とても人気商品となっています。
地域内での循環のモデルを創り出し、環境にも優しいまちづくりを進めていくことを常に心がけています。

【商品詳細】
○まんま芋グミ 710円(税込)
・焼き芋味と/ふかし芋味
・茨城県産紅はるか使用
○芋けんぴ 630円(税込)
・茨城県産紅はるか使用。

さかい河岸の歴史を学ぶ

江戸時代の利根川東遷と境河岸

江戸時代中頃になると商品流通が飛躍的な発展を遂げ、江戸幕府の御城米や大名（藩）の年貢米、各地の特産物を大量に安価な費用で「将軍のお膝元」の江戸や「天下の台所」といわれた大坂へ運ぶため、海上交通の整備や河川（利根川・富士川など）の開削が急ピッチですすめられ、大消費地の江戸・大坂を中心とした水運網が整備されていきました。なかでも境河岸（境町）と大きく関わった事業が、江戸時代初期に着手された関東郡代伊奈氏による三度にわたる備前堀・赤堀川の開削と拡幅工事に始まる利根川東遷でした。

やがて、渡良瀬川と合流して江戸湾に流れていた利根川の流路が常陸川とつながり銚子方面に改流され、利根川河畔の境河岸（境町）には、「将軍のお膝元」といわれた大消費都市の江戸と奥州や北関東を行き来する人々や荷物（物資）の玄関口として、たくさんの川船が出入りするようになりました。

こうして境河岸には、本陣・脇本陣、船問屋や旅籠屋（庶民の旅館）、茶店などが多く立ち並び、船頭や荷揚げ人足、馬子、旅人などたくさんの人々が集まり大いに賑わい、繁栄しました。

境町歴史民俗資料館 館長 野村正昭

赤堀川拡幅図（小澤佳男家蔵）

利根川改流関係図

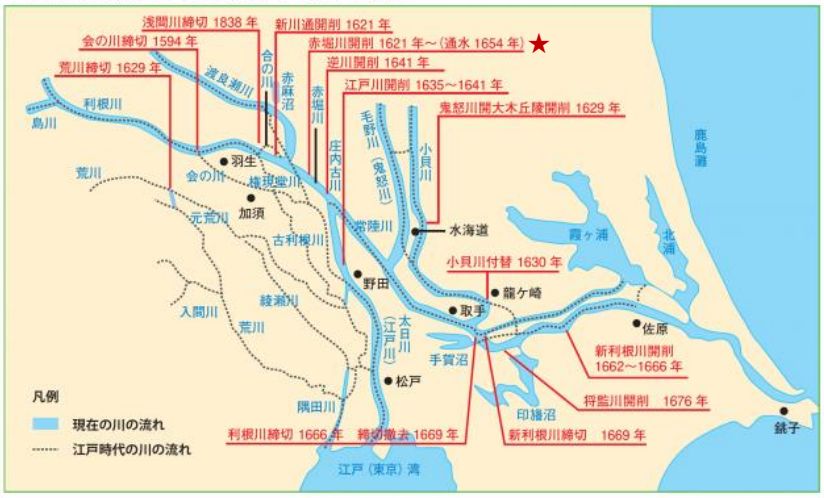
〈資料及び写真〉下総境の生活史 図説・境の歴史81頁

「坂東太郎」の流れを変える家康の始めた一大プロジェクトの重要開削地

利根川東遷は、徳川家康が利根川の流れを関東平野の東端である銚子に移し替えるという壮大な命を受け、関東代官の伊奈忠次が担当して進めた事業で、1594年、新郷（現：羽生市）での会の川を締め切った工事を皮切りに、新川通（現：加須市佐波～久喜市栗橋）が開削され、次に重要度が高いと言われ開削されたのが赤堀川（現：古河市～境町）です。

この事業で、江戸と東北諸藩の物流は飛躍的に向上、従来房総半島を大回りして江戸湾にというルートが、銚子から利根川を遡行し、関宿（野田市）を経て江戸川に入るルートが出来、水運が発展しました。それに伴い河岸が設けられた地域は商業的に栄えたのです。

▶ 利根川東遷による周辺河川の変化



株式会社昭文社（まっぷるウェブ）より引用